

お悩み相談室

「振り返りまで授業が行きつかない」編

児童生徒自身が学習過程を振り返り、自己の学びや変容を自覚したり、学びの過程で働かせた見方・考え方や気付き・発見を「振り返り」としてアウトプットしたりすることは、資質・能力の育成を図る上で大変重要です。また、学んだ内容の定着や育成を目指す力の付き具合の確認はもちろん、児童生徒が学習の価値を確認し、日常生活や次の学びにつなげるための新たな「問い」を引き出すためにも「振り返り」は効果的です。

限りある1時間をコーディネートし、学習の効果を高めるためにタイムマネジメントしていきましょう。

こんな授業になっていませんか

□導入が10分を超えることがある

既習事項や児童生徒の振り返り、生活とつなげて、必然性や問いを生かした「コンパクト」で「インパクト」のある導入を心掛けましょう。また、教師からの一方的なめあての提示や説明ばかりで児童生徒自身が解決の見通しを持っていない状態で解決活動に入っても、何をやるのか分からないため自力解決が進みません。

□全員の自力解決、全グループの話し合いの終了まで(時間延長も含め)待っている

解決活動や話し合いの途中で、全員(全グループ)の終了を待たず一旦切り上げることの方が効果的な場合もあります。その場合は、何が分かって何が分からないのか、どこまで話し合えていてまだどのようなことが話し合いの途中なのか、あるいは問題(解決の妨げ)になっているのは何なのかなどを明らかにさせることが次の解決活動に向かう上で重要です。

□指示が曖昧、または伝わっていないと感じて指示を繰り返したり何度も言い換えたりすることがある

曖昧で何度も繰り返される指示は児童生徒の学習を混乱させます。また、思考している最中に出される指示や発問は思考の妨げになります。説明や指示をする場面と児童生徒が活動する場面を明確にし、学習活動を円滑に進めるために的確で具体的な指示を心掛けましょう。

□ついつい説明が長くなり、児童生徒が受け身の学習姿勢になることがある

教師の長い話や説明は児童生徒の集中力や学習意欲を低下させます。教師の話や説明は簡潔で最小限にとどめ、児童生徒が思考・表現する時間を最大限に確保していきましょう。

□授業終了間際に振り返りを書いておくように指示だけして授業が終わることがある

振り返りを共有することで、さらに学びは深まります。振り返りを書いておくようにと指示しっぱなしで終わることがないように「ラスト10分の充実」を心掛けましょう。

振り返りを短時間で効果的に共有するためにはICTの活用(※)も効果的です。

※打ち込んだシートやノートの振り返りの写真を画面共有し、友達の振り返りを自由に見ることができるようにする。

めあての達成度別に振り返りシートの色を決めておき、選択した色のシートに打ち込むことで共有をスムーズに行う。等